

昨年十月二十三日夕方、新潟県の中越地方をマグニチュード6.8の地震が襲い、深刻な打撃を与えた。その第一報が当社にもたらされたとき、我々は第一に高齢者の皆さんの安否確認と同時にその方々に何ができるかを考え、ベッドや車いすの無償貸与を行った。

それから一月を過ぎたころ、復興いまだ途次の中越へ赴いた。当時の模様、と同時に自然災害に対応する福祉のあるべき姿を模索するため、高齢者総合福祉施設「すずらの園」さんを訪ねた。施設長の八木彦英さん、ケアマネージャーの丸山直美さんからお話を伺った。併せて当社長岡営業所の話も掲載することにする。

## 高齢者総合福祉施設「すずらの園」

### 施設長 八木彦英さんの話

中越地震では不幸中の幸いで施設の建物にはほとんど被害がなく、地域の避難所になった経緯もありまして、「地域を大事にし、地域のためになる」という理念が実践できた点は良かったと思います。

である小学校に向かわれた方もいたようなのですが、土曜の夜で暖房もな

役に立てたと思います。当時の状況からしますと、やはり木造の家屋は怖くて居られないということで、鉄筋で少しでも丈夫な建物は避難先として安心感があつたんだと

必要な方、持病のある方と様々でした。「地域交流スペース」のフロアもぎつしり詰り、三百名を超えていました。



相談室もベッドが入り、介護室に早がわり

# 地震

## そのときの介護の姿を追う

### 助け舟となった福祉施設

●地震直後を冷静に

地震によって、特別養護老人ホームやケアハウスの方たちが相当不安になつておられたので、まずは職員がすぐに状況把握と対応にまわりました。

その後、地域の皆さんが当施設に避難してこられました。指定の避難所



当時の状況を語る八木施設長さん

く寒いわけです。ここは停電までは暖房が効いていましたから暖かくて、それも運良く皆さんのお

思いです。避難してこられた方は大体家族単位で、赤ちゃんからお年寄り、介護の

部提供して使っていたいただきました。

施設としてはまず入所されている方の食事の責任がございます。食事は業者委託ですが、当時の道路状況をなんとかぐり抜け、いち早くおにぎりやパン、牛乳などを差し入れてくれ、入所されている方だけでなく避難されてきた方にも提供できました。

その後、対策本部から食事が提供されるということになりました。地域の方へ食事を渡す対応は当施設の職員が当初全部

### ●すばい食事の提供

た。その職員たちにはホームセンターで、懐中電灯やカセットボンベなど必要な品物を買ってきてもらいました。

二十六日に田井小学校に避難所を移動するという指示が出ました。でも、当施設では介護職員がいたこともあって、お年寄りや要介護の方と一緒に避難されてきたご家族からは、小学校ではとてもやっていけない、という意見が聞かれました。その人たちについては、二十六日以降も家族同伴の避難者扱いでこちらにおられました。施設では部屋とベッドを提供し、もしものための付き添いで、ご家族と一緒にいていただくというかたちをとっておりまして、要介護の方だけで六、九人おられました。ご家族も加えて二十人ほどになった日もありました。さくらメディカルさんからベッドを無償で貸していただき、地域の避難者の

### ●ベッドの無償レンタルによる対応

行っていました。さらに配送の遅れなどについての説明や謝罪も職員が行っておりましたが、食事の対応だけでも市の職員を派遣してほしいと頼み、二十五日のお昼からはそのようになりました。

方にも使ってもらいました。緊急ショートステイの受け入れに際しても本当に助かりました。こちらでも緊急で対応している中、「ベッドが必要になったらすぐ言ってください」と頼りになる言葉でした。

## ●緊急ショートステイ

この施設のショートステイの定員は十二名ですが、災害時などにはその定員枠を外して緊急ショートステイとして受け入れができます。緊急とはいえ、もちろん介護保険法上のもので、ケアマネージャーがプランを立ててサービスを提供いたします。二十三日から二十五日までは避難所としての対応がありましたが、落ち着いてきたらそういう要望が出てきて、受け入れを開始したわけです。私どもでは、二十六日に一名の緊急ショートステイが始まり、それ以降はおおよそ五名から八名くらいずつの利用がありました。ちなみに、一番遠くでは小千谷市からの方がおられました。家が被災したという事でこちらに來られ、利用されていました。

とにかく、困っている人に対してすぐにどれだけ手助けができるかということなのです。

## ●避難とデイの掛け持ち

昼はデイサービスを利用してお風呂に入られるなどして、夜は施設を避難所として過ごしていただく、という方法もありました。その場合、夜は私どもの職員が全面的につくわけにはいかないの、家族の方に泊まっていたでいていました。

しかし、デイサービスの利用も介護保険の限度額がありますから、毎日とはいかないわけです。そのため今日は避難者としてデイサービスとは違うフロアでテレビを見たりお茶を飲んだりして、明日はデイサービスを使って、という利用の方法がありました。

避難者としての場合、「そんなとこにいないでこっちに來ればいい」なんてデイサービス利用の方が声を掛けるものですが、我々も気を遣う部分がありました。デイサービス利用では実際に利用料が発生しているわけですから。

## ●地域のためになる施設に

すずらんの園の取り組みが参考になるかはわかりませんが、もつとご苦労なさって、もつといい取り組みをされた施設もあったかと思っています。

どの施設も地域を大事にしよう、地域との関わりを深めようという考えを持っていきます。避難所になった他の施設の方も同じことを感じておられるかもしれませんが、こういった施設は本当に避難所として最適だと思います。ただし、私どもは行政機関ではありませんし、できる部分とできない部分が当然あります。災害時の地域の安心や安全のためにも、行政と連

## 河村一美のシルバー料理教室



さわらの野菜蒸し

1人前  
118Kcal  
約150円

●材料(四人分)  
さわら 四切

- 塩 小さじ 1/2  
酒 小さじ 2  
玉ねぎ 一個  
にんじん 1/2本  
ゆで筍 1/4本  
生しいたけ 四個  
さやえんどう 二〇本

### ●作り方

- ①さわらは塩と酒をふって一〇分くらいおき、下味をつける。
- ②玉ねぎは薄切り、にんじん、筍は千切り、生しいたけはじくをとって薄切り、さやえんどうはす

### ●食べた方の感想

「色がきれいで、魚も柔らかい。味が薄いという感想が多かったのですが、ご家庭では野菜にかける調味だれを工夫されるとよい。」

携を図って役割分担を明確にしておくことが重要だと思っています。福祉施設はここまで提供できる、行政機関はここまで支援する、というように準備しておくことで、より

適切な対応が施設側としてできると思います。今後、もし災害が起こっても、私どもはまた避難所として開放するつもりでおります。避難所というよりも、地域の方に何

かお役に立つことがあれば何でもやろうと思っておりますので。職員も非常に苦労はしましたが、少しでも地域のお役に立ててよかったと思っています。

## 課題は連絡網の確立と心のケア

### ケアマネージャー

### 丸山直美さんの話



●地震の時のケアマネージャー  
私たちの仕事は地域に

出ていく側なので、地震後は在宅の利用者さんの安否確認を主にやっておりました。安否確認はまず電話でしましたが、かなりつながりにくい状況でしたので、その場合は直接訪問で確認していました。

その後は、ご自宅が倒壊や半壊で住めなくなつた方の住居の確保や施設との連絡調整ということと動いていました。

二十六日から小学校が避難所になり、そちらにおられる要介護の方の連絡調整もいたしました。避難所に移られた後で具合が悪くなられた方とか、何日もの車中泊で体調を崩された方もおられ、対処方法の相談も行っていました。

●地震後のケアマネージャー  
避難所からご自宅に戻られた方には再びデイサービスやショートステイ



「もうひとつの我が家」というキャッチフレーズの「すずらんの園」さん。避難所としても、もうひとつの我が家を実感した。

を利用できるように連絡調整を行いました。市外の親戚の家に移られたりなどした方には、その先で介護が受けられるよう調整もしました。

## ● 今後は心のケアも

電話が当日全然つながらず、ご本人やヘルパーさんとも連絡が取れなかったということ、その後の会議でも、連絡調整が困難な状態で対応をどうするかが課題になりました。

震災後、介護認定を受けられる方やケアハウスへの入居申し込みをされる方が、通常より多くおられました。急に状態が悪くなったというわけで

はなく、地震によって一人暮らしに対する不安感を持たれたり、先々を心配されたことが理由だと思っています。

そういった点からも、心のケアが重要になります。私たちも心のケア養

## 自然災害時の福祉とは

### 長岡営業所の取り組みと感想

#### ● 発生後の業務

地震から一週間くらいは営業所待機という方法を取り、主に当社のサービス利用者さんの安否確認、ケアマネージャーさんとの連絡で、緊急の対応ができるようにしていました。

#### ● 被災地の要介護者は

山古志村では介護度の高い方に施設入所をすすめ、村外の各施設に入られた方も何名かおられ、災害時の緊急ショートステイという方法で分水町や弥彦村など遠方に、というケースもありました。

成講座に出まして、日常、そういった方を発見したらすぐに病院や心のホットラインを紹介したり、保健師につないでいくなどの具体的方法について再確認しました。

山古志村で介護認定を受けられている方は、避難後、そのまま同じケアマネージャーさんが担当されている場合と、長岡市のケアマネージャーさんが新たに担当になる場合があります。

そこから再び当社を指定してサービスを提供させていただいている方もおられます。

そのサービス提供先は仮設住宅の場合も親戚のお宅の場合もあります。

今、山古志村の人たちは長岡に三ヶ所くらいの仮設住宅で、地域ごと

にまとまって生活している

### 福祉用具無償レンタル台数

ベッド：77セット  
マットレス：12台  
車イス：16枚

るので、集落のコミュニティを大事にした作りになっています。その仮設住宅は段差なども少なめの作りなのですが、お風

#### ● 無償の福祉用具レンタルと現場

### 福祉用具を扱う立場として

「こんな大変なときにベッドや車イスを倉庫に眠らせておいてどうするんだ」という思いがありました。そこで、在宅介護をされている方々が自宅を離れ避難先に移ったとき、ベッドや車イスなどの不足で日常生活を送るのが困難にならないよう、各市町村、各施設さんにこれらの無償レンタルをしました。

福祉用具無償レンタルの話を各市町村の担当課に連絡をしたところ、反響が多くありました。確認をしてみたら必要な方がたくさんいらつしやうたということで、実際始めたところ次々に依頼が来ていました。依頼は被災地よりもやはり周辺地域のほうが多かったです。

避難所では薄いマットやシートの上に布団を敷いて寝るといのが普通でした。車イスが使われている方が床の布団に寝ますと、その状態での起きはできても車イスへの移乗が大変になります。

当初、まわりの皆さんも手伝っていたようですが、ご本人としてはいつまでもまわりに迷惑をかけるのも……と考え始められていたところに、ちょうどベッドをお貸しすることができ、一人でベッドから車イスへ移乗ができるようになって非常に助かったというお礼の言葉をご本人、ご家族の方からいただきました。

他の避難所では台をいくつかくつけてその上に布団を敷いて寝ていらっしゃるおばあちゃんもおられました。そこに当社のベッドが入り、やはりご本人、ご家族も含めてすごく感謝されました。こういったかたちで避難所や施設さんにお貸しできたのですが、何か「これだ。やってよかった。」と本当に感じました。日常の業務の中でも地域への貢献ということは常に考えていますが、今回はそれをさらに強く感じました。

メーカーさんの支援体制としてもベッド用キャスターやマットレスの提供ははじめ非常に助かりましたし、今後もしものときにどのように対応したらいいのかということも学習できました。次回があつてはいけないことな

新年おめでとうござい

ます。「さうして、今年はどうなるのかな？」

去年からの想いがこの言葉

を元気にしたり、

ちよつと不安にしたり

りすると思うのです

が、いかががでし

う？

去年、あまり良い

ことがなかったとか、

悲しい思いをしていたり

すると、今年もまた沈んだ表現になってしまいま

## シルバー 休憩室

### 新年明けて

### 福よ来い！

障害者スポーツ指導員 佐藤 浩子

\*\*\*\*\*

の言葉も弾んだり、沈んだり、一つの言葉や文章がその人によって、違ってくる。福を呼び込むぞー、

か「今年こそはいいことがあるといいな」って、声に出して言ってみよう。福を呼び込むぞー、

次に簡単運動をしましょうか。仁王立ちをして息を吸いながら両手を上げてます。グーを作っ

いことがあつたりすると、今年もまた期待に満ちた、弾んだ表現になります。

同じ「今年もまた……」と

どうですか？明るく言えますか？

「今年もまた良いことがあるといいな」と

と叫んでみま

よう。叫ぶのが

出来なかったら、

声に出して言っ

てみましょう。

と息を吐きながら、大きく回して両手を上げてきます。胸の前でグーを合わせて……「よいしょ！」

「よいしょ」は息を吐き出すように思い切り言いましょう。二、三回やりましょうね。さあ新しい空気と新しい運氣を呼び込みましょう。

そしたら無理しないで今年もがんばりましょうね。皆さんに「良いこと」

# 憩いの“場”に使ってください

## = 持家を大きく改造 =

上越市の佐渡汽船発着所から旧国道8号線を海岸沿いに走ると、黒井の工場に囲まれたお宅がある。そこは個人的に介護する方、される方も憩える家をつくろうと計画している落谷千夜さんの実家で、通常は使用していない。その福祉用具も整った居間で千夜さんは語った。

「全ての戸を引き戸に取り替え、押し入れも取り払って部屋をつなげ、戸を外したらどの部屋も見渡せるようにし

たんです。敷居の高さと廊下も揃えて、元々ついていた手すりも付け直して。私の考えは、『家を貸す』というのではなくて、皆さんや近所の方に『使っていただきたい』ということなんです。それに協力してくれる人もいてくれれば、私もすごく助かりますし……」

千夜さんの『場』を提供したいという熱意について、もう少し思いのたけを述べてもらうことにした。



落谷千夜さんと玄関

### 家の提供のきっかけ

私自身、五年くらい施設に勤めていて、昨年十月にやめ、今はグループホーム(注1)に勤めているんです。

私の母も要介護4です。うなずくが、口喧嘩

でも何でもコミュニケーションがないと痴呆が進むんです。だからもつといういろいろな人のコミュニケーションを持ってほしくて、「沖見の家(注2)」さんに迎えにきてもらって、遊んだり、話をしてもらったりしていました。



歩行練習用平行棒のおかれた居間

### 用語説明・脚注

#### 注1:「グループホーム」

少人数(5~9人)の痴呆の要介護者が小規模な共同住居で、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフとともにやり、入浴、排泄等の日常生活上の介護を受けます。

#### 注2:「沖見の家」

社団法人呆け老人をかかえる家族の会新潟県支部が平成12年に開設。お年寄り、子ども、障害者、ボランティアなどがアットホームな雰囲気の中一日を過ごしている。

#### 注3:「こどもの家」

上越市の事業で市内37ヶ所に開設。子どもたちの遊び場として、遊具のある広間、図書室等が備えられている。また、各種地域活動等の場としても利用されている。

私は「介護する人も大に」という考えがあるんです。介護する人が具合悪くなったり、「もうできない」と言ったら在宅介護は終わりなすから。そういう視点でもって憩いの場を作って

最初が簡単に「使ってもらえるようにしますわ」など近所にお知らせしたんですが、なかなか難しいですね。「利用申し込みの方、ご協力いただければ、お電話下さい」というふうにしよと思ひます。留守電にメッセージを入れておいてもらって、連絡をとりあえるように。鍵の管理をしてもらったり、決まった曜日に来ていただいて、いてくれる人があればいいんですけれども……。

あと五年くらいしたら仕事もやめてここに根を下ろして、ボランティアで「家にばあちゃん迎えに来て」って言われれば迎えに行つて一日過ごす

えですが、寄り合い所として、例えば、踊りで集まったり、絵を描いたり、そういうかたちでみんなが集まれる場所を提供したいんです。「こどもの家(注3)」は子どもに開放している施設です。ね。それに対して、「おとなの家」っていうような、障害や介護度がある人にも優しい、そんなふうな大人が集まれるような場所になってほしいと思っています。

### ゆくゆくは「おとなの家」に

ことができてきたら、って考えています。

まずは落谷さんと  
025-544-3811  
お話しして下さい

### 「使ってもらうため」の今後の計画



トイレも完備



気分爽快にお風呂を

頃在宅でお風呂の介助をなさっている方が二人集まっ

いきたいんです。ここを家にいるのと同じに過ごしてほしいし、自分一人じゃなくて介護仲間がいればその分、余裕もできる

とは思っています。その人たち同士でお互い見えるところにおいて、情報交換をしながら、少しでも気楽に過ごせればうれしいですね。

もろうしかないですね。「近所の家にお茶飲みに行く」ということだと考えていただきたいんです。また、お風呂に入るときには絶対に一緒に介護する人が浴室で見てもらわないといけません。日